



10月の園だより

令和6年10月1日

目黒区立祐天寺保育園園長

吹く風がとても心地よい秋がやってきました。

プールや水遊びで存分に楽しんだ子どもたちは、今運動会へと心を向けています。5歳クラスでは、全員で大縄の連続跳びに挑戦しています。回数が伸びて皆が喜々とする一方で、引っかかってしまった子が時に落ち込みながらも挑戦しクリアする場面もあります。仲間の中でそんな葛藤を繰り返しながら、一体感が増しているようです。どのクラスの子どもたちも、楽しみながら日頃の力を発揮できる場になりたいと思っています。是非ご参加ください。

さて先日、もうすぐ出産休暇に入る職員に5歳児クラスで話を聞きました。大きなお腹の中に赤ちゃんがいること、今どれくらいの大きさや重さなのかを、エコー写真を交えて伝えてくれました。看護師も加わりどんな体制でお腹の中にいるのかも伝えました。最後に一人ずつお腹に触れさせてもらったのですが、その手の優しいこと。お腹の赤ちゃんに大きさが近い人形を示すと、皆が順番に抱っこを始めました。そのなんとも柔らかく穏やかな表情に赤ちゃんを思う温かみを感じました。

身近な生活の場で、子どもたちにたいせつな命の誕生を、なんとなく感じてもらえたのではないかと思います。こうした機会を持ちながら、“みんなが大事な一人“ということ伝えていきたいです。

〈10月の行事予定〉

- 運動会 (2・3・4・5歳児)
- 内科健診 (全園児)
- 幼児お楽しみ会 (3・4・5歳児)
- 芋ほり遠足 (4・5歳児)
- 焼き芋会 (全園児)



幼児クラス (3・4・5歳児)

幼児クラスのみんなで、部屋にある積み木やカプラ、木製の動物や人形等をホールに持っていき、広い空間で自由に構成遊びをしました。ホールの中央では、人形と積み木を組み合わせ家やプール、動物園などが出来上がり、人形を自分たちに見立て「おはようございます」「シャワーはここです」など経験したことを遊びに取り入れてイメージを膨らませていました。それぞれの道路や橋が延びていくと自然と繋がって大きな街になり、お互いの場所への行き来が始まったことで遊びもさらに広がっていきます。一方で、真剣な表情で5歳児がカプラを螺旋状に積み上げていると、その様子を3歳児がじっと見ていました。保育士が隣で「これ、すごいよね」と呟くと、「やりたい」とすぐそばで作り始めましたが、バランスを調節しながら重ねていかないと崩れてしまいます。根気よく何度も何度も繰り返し重ねて、ようやく完成し「できたよ」と嬉しそうに見せてくれました。「すごい、上手くできたね」と褒められると、嬉しかったようで「次はこれ作る」と5歳児が作っている手の込んだ高い屋根付きの家を指さし、作り始めました。時間はかかりましたが、完成して満足そうな表情でした。

広い場所で、好きなものを使って好きなように、夢中になって遊ぶ経験や異年齢で関わりながら刺激をたくさん受け遊ぶことをこれからも大切にしていきます。



0・1・2歳クラスの室内遊びの様子をお知らせします

ちゅうりっぷ組（0歳児）



容器の蓋に丸く穴を開けたものに、プラスチックチェーンや握れる大きさの柔らかいボールを入れたり、出したりして楽しんでいます。入れる穴や手にした玩具は大小様々ですが、“ここにいたい”と穴を見て入れようとしている姿があります。思ったように入らないと手を止め見上げ目の前の保育士に“入らないよ”という表情を見せ、手助けしてあげると、最後まで自分で入れられるようになり、パチパチパチと手を叩いて、「(はい) った」と言って保育士をみています。「入ったね」と同じように手をたたいて声をかけると満足そうな表情を見せ、また遊び始めます。子どもの興味やしたいことをキャッチし、小さな発見や喜びに共感しながら一緒に遊びを楽しんでいます。



たんぼぼ組（1歳児）



棚にパンに見立てたいろは積み木やパズルを並べ、「いらっしゃいませー、パン屋さんでーす」と遊びだした子がいました。保育士が「パンを一つくださいな」と言うと、他の子も「パンくださいな」と言葉や仕草でやり取りをしています。「はいどうぞ」と渡してもらおうと大事そうにバックに入れたり、手に持ったり、今度は家に見立てた場所へ行きみんなで食べ始めると、一人の子が大きな口を開けて「おいしいねえ」と言いました。すると友達顔を覗き込むようにして「おいしいねえ」と口をもぐもぐと動かし楽しそうな雰囲気食卓になりました。また、綺麗に並べられているパンがとても魅力的に映ったようで、同じように別の場所でも一つひとつ玩具を並べ、「くださいな」と再びやり取りが始まりました。この時、いろは積み木はパンになっていましたが、時には電話など、違うものになることもあります。玩具を様々な物に見立て、簡単な言葉や仕草でのやり取りも楽しみながら見立てつもり遊びを楽しんでいます。



ひまわり組（2歳児）



数人で長積み木やパック積み木で家を作り遊んでいると、「行ってきまーす」と言って出かけていく子がいます。少し離れた所では長積み木を並べた電車に乗って遊んでいる子たちがいます。家から出かけてきた子も「のせてくださーい」と電車に乗り込み、「どこまでいくの?」「どうぶつえんいく」「おりまーす」などと子ども同士で話しながら、乗り降りを繰り返します。電車の前を通る子がいると、運転士が「だめだよ、どいて」と言います。保育士が「ここは電車が通るから危ないみたい、どこを歩いたらいいかな」と話すと、別の子が「ふみきりです。カンカンカン...」と言って電車の前で腕を遮断機に見立てて上げ下げしそこを渡るのを楽しみ始める子もいます。

それぞれの経験したことを再現して遊ぶ中で少しずつ子ども同士のイメージがつながって遊びが変化していき友達との関わりを楽しみながら遊んでいます。

